

3号機残留熱除去系弁の不具合の調査結果について

定期検査中の当所3号機において、平成17年2月14日、残留熱除去系熱交換器^{*1}(A)出口弁(電動弁)を全開から全閉へ操作し、その後、通常状態へ戻すために開操作した際、中央操作室の表示が全開を示さなかったことから、現場を確認したところ、当該弁が中間開度で停止していることを当社社員が確認いたしました。

その後、当該弁の動作確認として、閉操作後に再度開操作を実施したところ、異音が確認されたため、開操作を停止いたしました。

なお、原子炉の冷却は残留熱除去(B)系にて行っております。

(平成17年2月14日お知らせ済み)

調査の結果、当該弁の開閉時に弁棒とグランドパッキン^{*2}がこすれる際の抵抗が若干大きかったことから、弁の作動により異音が発生し、途中で弁の作動が停止したものと推定いたしました。

このため、グランドパッキンの締め付け調整を実施し、弁の動作に異常がないことを確認いたしました。

なお、電動弁については、今後も点検後または定例試験等において健全性の確認を行うとともに、必要に応じてグランドパッキンの締め付け調整を行ってまいります。

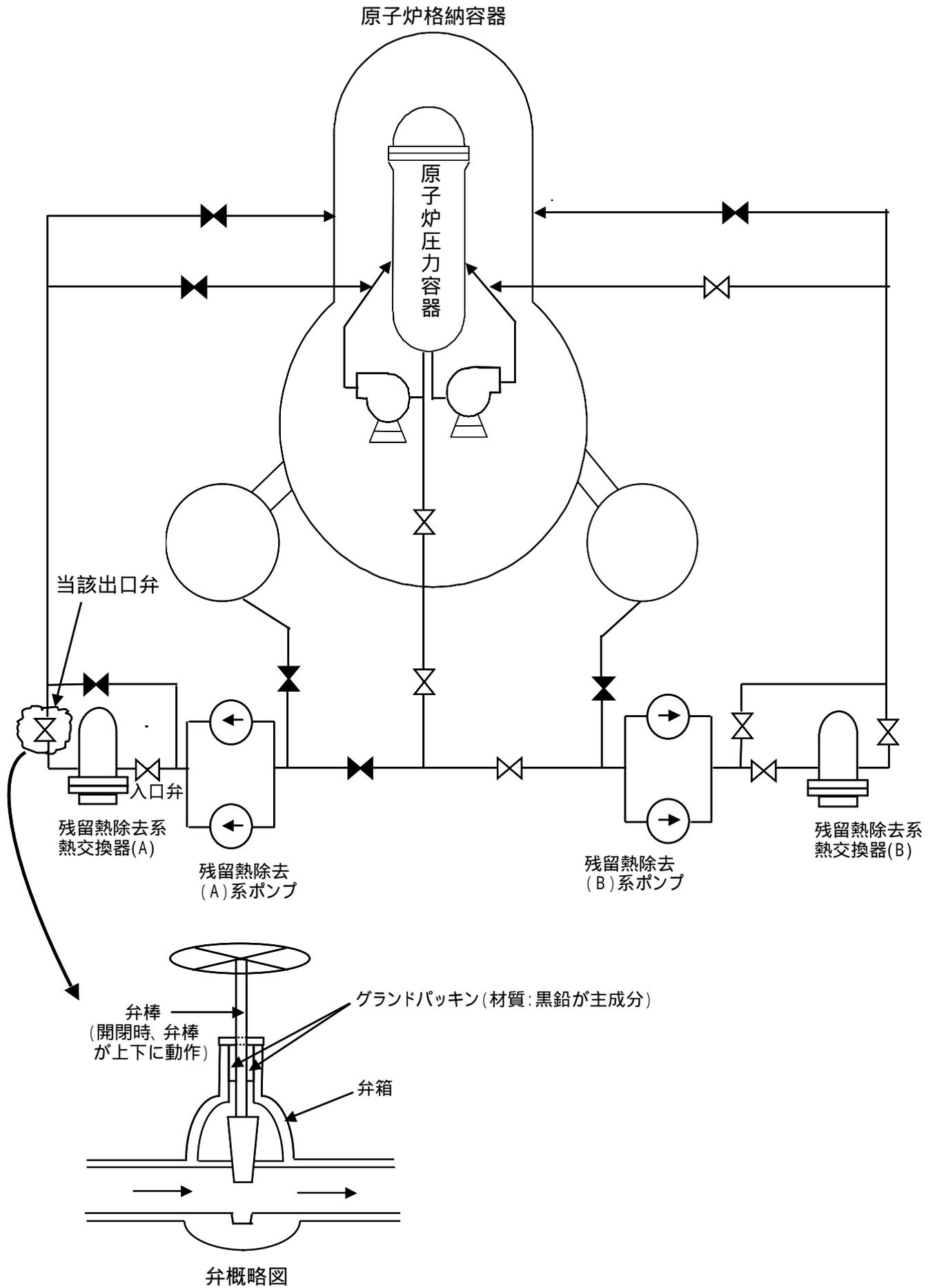
以上

*1 残留熱除去系熱交換器

残留熱除去系は非常時に原子炉に水を注入したり、原子炉を停止した後に炉水を冷却する設備で、熱交換器は非常時に原子炉格納容器内の蒸気を凝縮したり、原子炉停止後の炉水の冷却をするために使用するもの(2基ある)。

*2 グランドパッキン

弁棒と弁箱との隙間から外に流体が漏れ出さないように設置しているもの。なお、グランドパッキンの調整は、流体の漏れ出しあるいは弁の動きが鈍い時などに通常実施している。



3号機残留熱除去系統概略図